

【開催報告】「SOMPO福祉財団賞」受賞記念講演会・シンポジウム

公益財団法人SOMPO福祉財団は、「SOMPO福祉財団賞※」の受賞記念講演会・シンポジウムを開催しました。

※「SOMPO福祉財団賞」は、優れた社会福祉学術文献を表彰する制度で、社会福祉の学問的探求を志向する多くの学者・研究者の研究意欲の促進と、わが国の社会福祉の発展に寄与することを目的として1999年に創設しました。

記

- 開催日時 : 2024年7月28日(日) 13時~17時
- 場 所 : グランドアーク半蔵門 (東京都千代田区)
- 参加人数 : 約50人 (大学関係者、学生、企業・行政の担当者、社会福祉団体関係者ほか)
- 主 催 : 公益財団法人SOMPO福祉財団
後 援 : 厚生労働省、一般社団法人日本社会福祉学会、日本地域福祉学会、
一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟、日本社会福祉系学会連合、
- 内 容
＜第Ⅰ部＞ 受賞記念講演会
受 賞 者 : 丹波 史紀 氏 [立命館大学産業社会学部教授]
受 賞 著 書 : 『原子力災害からの複線型復興—被災者の生活再建への道』
＜第Ⅱ部＞ シンポジウム
テ ー マ : 大規模災害とソーシャルワーク — 複線型復興の可能性
パ ネ リ ス ト : 伊藤 美子 氏 [社会福祉協議会山田町社会福祉協議会地域福祉課係長、
(50音順) 生活支援相談員]
大島 隆代 氏 [文教大学人間科学部准教授]
武田 康晴 氏 [華頂短期大学幼児教育学科教授]
丹波 史紀 氏 [立命館大学産業社会学部教授]
コーディネーター : 秋元 美世 氏 [東洋大学大学院特任教授]
大島 巖 氏 [東北福祉大学副学長・教授]
- 参加者の感想 (一部)
 - ・理論、実践の様々な観点から複線型復興について話を聞くことができ、勉強になった
 - ・これまでの生活体験、知識、文化を尊重する事、個別に対応する事の必要性について理解を深めた
 - ・DWAT(災害派遣福祉チーム: Disaster Welfare Assistance Team) 活動を初めて知り興味深かった
 - ・東日本大震災による被害から復興、その先の課題まで実際の現場の話を聞くことができよかった
 - ・難しいテーマがコンパクトにまとめられて学びになった
 - ・シンポジストのそれぞれの角度から被災者の支援の大変さがよく理解できた
 - ・単線型から複線型への転換が必要な中、行政、政治方面など多方面からの協力の必要性を感じた
 - ・これから起こりうる災害に向けて、個人ができる行動や地域福祉社会での共助、公助の連携した役割が大切だと思った
 - ・複線型支援の中長期的な仕組みを作り上げる必要性を感じた
 - ・自らで被災されながら生活指導員として頑張ってきた経験談は、大変貴重で心に響いた
 - ・本質的な復興に福祉の力は重要であることを認識した

以上